

第44回獣医学特別セミナー

「エボラウイルスを紐解く：天然のナノマシンが、なぜ人類の脅威になり得るのか？」

海老原 秀喜 先生

(米・メイヨークリニック・Department of Molecular
Medicine)

2018年10月26日 (金) 17時00分より

農・獣医学棟2階 大会議室

ウイルス (virus) は、ラテン語の“病気を起こす毒”という言葉に由来しており、様々なウイルスがヒト、動物、植物に感染し、病気を起こすことが知られている。しかし、ウイルスにとっての感染・増殖の最終目的とは、自然界で宿主の細胞機構を効率良く利用し、自らの子孫 (コピー) を作り、それらを次の宿主に伝播することである。従って、十分な子孫ウイルスを他に伝播する前に宿主に重篤な病気を起こし、急激にその宿主を死に至らしめることは、ウイルスの利に叶っているとは言えない。一方、20世紀後半から人類の前に姿を現したエマージングウイルスの中には、極めて重篤な感染症をヒトに引き起こすアウトサイダーなウイルスも存在する。その中でも、エボラウイルスは、凄惨なアウトブレイクを引き起こすことから、最も悪名高いウイルスと言える。本講演では、約19,000文字で表すことができる遺伝情報 (設計図) と7つのタンパク質を主な部品として組み立てられた天然のナノマシンーエボラウイルスが、どのようにしてヒトに致死性の高い出血熱を引き起こすのかを分子ウイルス学と宿主 (細胞) - ウイルス間の相互作用の見地から紹介する。

連絡先：下田 (5888)、柳田 (5914)、島田 (5909)